公益社団法人 日本人間ドック学会

国民の皆様へ 基準範囲についてのご説明

日本人間ドック学会はこの4月、大規模調査から基準範囲に関する新たな調査結果を発表しました。一部の検査項目においては対象者や統計手法の違いから生じうる差異がマスコミでクローズアップされ、誤解を招いております。国民の皆様にこの点についてわかりやすくご説明申し上げます。

どうして新たな基準範囲を調査・発表したの？

基準範囲（以前は正常値と呼ばれていました）の選定方法は国際的に決められていますが、検証する対象者が少なかったため、各医療機関によって基準範囲が異なっていました。それらを統一するための第一歩として調査・発表したのが今回の基準範囲です。

どうやって基準範囲を調査したの？

全国の150万人余りの人間ドック受診者から、他の全ての検査に異常なく、飲酒は1本以下、喫煙もしない一万五千人余りの厳選された健常者の検査値を元に算出しました。この選定方法は国際的に決められています。

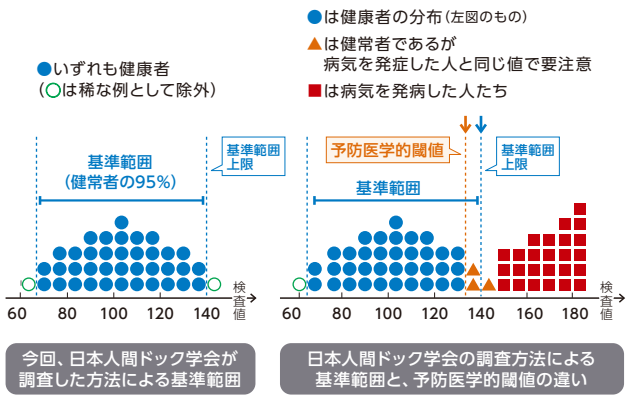
今回の基準範囲に照らし合わせると、今まで治療していた私は治療をやめてもいいの？

今回の発表により、多くの方に誤解されている点です。
今回の値は、予防医学的閾値（下記の「もっと詳しく」ご参照）とは異なります。

今回の値で基準範囲内になったからといって、治療を受けなくてもよい、薬を中止してもよいというわけではありません。

自己判断せず、かかりつけ医師と相談してください。

もっと詳しく！ どうして従来の基準範囲と異なるのか？

たくさんある検査項目の中で、肥満度（BMI）、コレステロール・中性脂肪（脂質）、血圧、糖代謝（血糖、HbA1c）の項目は、異常になるほど将来脳卒中や心臓病などを引き起こすため、危険域となる「予防医学的閾値」（右図のオレンジ色矢印↓）が設定されています。
今回の基準範囲（青色矢印↓）の上限値と予防医学的閾値（オレンジ色矢印↓）は自ずと違い（2つの矢印）が生じます。

今回の値は、他の全ての検査に異常なく、飲酒は1本以下、喫煙もしないなど場合に限ったものです。当てはまらない場合はより厳しい基準から判断する必要があります。また将来事故を起こしやすいとされる値（予防医学的閾値：最高血圧なら140mmHg）を超えている場合は、将来事故（脳卒中や心臓病など）を起こす危険性が高まります。自己判断されず、かかりつけ医師と相談し、予防医学的閾値も重要視されることを願います。